



THE HIROSAKI UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

弘前大学附属図書館報 No.37 2013.5

|                  |    |
|------------------|----|
| 目次               |    |
| 巻頭言 知的財産は誰のものか   | 1  |
| 特集 弘前大学附属図書館     | 3  |
| 本との出会いを楽しむ<第11回> | 6  |
| 図書館に関する話題<第11回>  | 7  |
| Library News     | 8  |
| 弘前大学出版会より        | 10 |
| 本学教員等著作寄贈図書・資料一覧 | 11 |

## 知的財産は誰のものか

附属図書館医学部分館長 藏田 潔



10代の頃からインターネット業界で天才プログラマーとして知られたアロン・スワーツ氏が、2013年1月11日、ニューヨーク市内の自宅アパートで自殺しているのが見つかりました。享年26歳でした。彼は「公的な情報は誰もが無料でアクセスできるべき」という主張のもとに、開かれたネット社会を目指す運動を行なっていました。そんな中で彼が2010年にマサチューセッツ工科大学（MIT）の学術論文のデータベースネットに不正アクセス（ハッキング）し大量の記事や論文をダウンロードしたことにより、通信詐欺など約10の罪状で起訴されていました。2013年春から裁判所で公判が始まる予定でしたが、有罪になれば最長35年の禁錮刑が下る可能性もあり、追い詰められて自殺したとみられています。

著作権を有する文書や、個人情報を含む公的な情報などを不正にアクセスすることは違法行為であり、無論、許されるべきではありません。しかし、私達が研究等で有料の電子ジャーナルからPDFファイルをダウンロードしようとする、一件で

何十ドルも課金されることに戸惑いを覚えた方は多いと思います。かつては日本でも主要な学術雑誌は東大や京大だけが購入することを許され、学術情報を独占していた時代がありました。現代ではそのようなことはありません。しかし、お金のある大学は電子ジャーナルを含む学術情報を購入できますが、そうでない大学は購入に大きな制限があるという実態があります。すなわち、情報アクセスの格差が現在も厳然と存在するのです。これは日本国内だけの問題ではなく、世界的な格差の重大問題のひとつとして認識されるべきです。

私は平成18年から約7年間、本学の附属図書館医学部分館長として仕事をさせていただいてきました。この期間の中での大きな出来事のひとつは、雑誌代金の高騰により、それまで購入してきた学術雑誌とその電子版が図書館の予算ではすべてを購入できなくなり、ついには電子版Nature誌の購読を中断せざるを得なくなったことです。Nature誌も読めないような大学は大学ではないというお叱りの言葉も沢山いただきました。

その時に本学の学長をされていた遠藤正彦先生に、このことを何とかしてほしいと、長谷川成一附属図書館長とお願いに上がりました。遠藤前学長は学術情報基盤の整備が極めて重要なことを理解されており、総額で数千万円もかかる電子ジャーナル購入費を全学の予算として計上できるよう学内予算の組み替えを行うと約束していただき、実現されました。このような大きな額の予算の組み替えが行われることは極めて異例のことです。以来、この数年で本学の電子ジャーナルの使い勝手は格段によくなりました。

2012年にiPS細胞の研究でノーベル賞を受賞された山中伸弥教授の受賞インタビューを聞いていましたら、「私達は世界に先駆けて研究を進めて来ましたが、この研究の成果による医療技術が独占されることなく、世界中に安価に提供できるよう、知的財産としての特許を京都大学が取得することは極めて重要です。」という趣旨のことをおっしゃられていました。大学という公的機関が果す

べき役割をあらためて教えられた思いでした。iPS細胞に限らず、大学における研究は文系理系を問わず社会に還元されるべきです。しかし、あらゆる学術研究のために、大学が所属する教員や学生のために学術情報基盤を整備し提供するという役割は、大学が大学として存在するためのもっとも根幹になるものと信じます。

このように、図書館は本を広げて勉強する場という以上の、見えない部分での大きな役割がすでに与えられつつあります。電子ジャーナル以外にも、本学からの学術情報を発信するため、学術情報リポジトリが整備されつつあり、全国の大学の中でも上位にランクされています。また、世の中にタブレット型コンピューターが急速に広まると同時に、そのためのコンテンツも急速に拡充されつつあります。図書館で学生さんに貸し出す本や教材の多くが電子化され、コンピューターやスマートフォンでも読んでいただけるような日が近い将来に必ずやってくるでしょう。

(くらた きよし)

#### 購入雑誌と電子ジャーナル件数の推移

|         | 平成<br>18年度 | 平成<br>19年度 | 平成<br>20年度 | 平成<br>21年度 | 平成<br>22年度 | 平成<br>23年度 | 平成<br>24年度 | 平成<br>25年度 |
|---------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 和雑誌     | 40         | 40         | 39         | 39         | 42         | 42         | 40         | 22         |
| 洋雑誌     | 103        | 103        | 68         | 68         | 68         | 70         | 67         | 50         |
| 電子ジャーナル | —          | 2,687      | 2,148      | 3,358      | 8,542      | 8,819      | 11,795     | —          |

和・洋雑誌は、医学部図書館予算で購入した雑誌点数（研究室は含まない）  
電子ジャーナルは、その年度最終日（3月31日）の件数

#### 弘前大学電子ジャーナルリストURL

<http://xx6ge5xn4a.search.serialssolutions.com/>（学内専用）